

2006年5月9日  
上智大学文学部新聞学科  
配布用資料

## デジタル化時代のジャーナリズム

=ワシントン取材の現場=

- ▽ インターネット台頭で激変する「伝統メディア」
  - ・ 進む米メディア界の再編・離合集散
  - ・ 米3大TVネットワークの消滅 → メディアミックス・5つのグループ化
  - ・ 新聞業界の収益悪化
  - ・ AP通信、ニューヨーク・タイムズの取り組み → 編集部門の多機能化、デジタル化
  - ・ 2005年、日本メディア界を揺さぶった3つの出来事  
→①民放TV対IT企業②光ファイバーの普及と携帯の高性能化③ネット広告の急伸
  
- ▽ ニュースギャザリングの変化
  - ・ 変わるものと変わらないもの
  - ・ メディア、書籍、刊行物などのモニター
  - ・ ブログ、電子メールを含むネットによる情報収集 → 取材源が世界に情報発信
  - ・ 記者会見、プレスリリース
  - ・ 独自の直接取材
  
- ▽ 競争激化するジャーナリズム
  - ・ 伝統メディアの優位性後退 → 人材、資金力、アクセス権をどう維持するか
  - ・ 問われる取材力、分析力、企画力 → デジタル化社会で重要性高まるアナログ取材
  - ・ インタラクティブ・メディアとプッシュ型コンテンツ
  - ・ アクセス権確保の重要性 → パブリック・ジャーナリズムの限界
  - ・ 速報、特ダネ、ディープストーリーの価値
  
- ▽ ワシントン取材の現場から
  - ・ 東海岸は締め切りが1日「3回」
  - ・ 日米間のニュースバリューの違い
  - ・ ホワイトハウス、国務省の取材活動  
→ 記者会見、ギャグル、バックグラウンド・ブリーフィング、ラウンドテーブル、  
テレカンファレンスなど
  - ・ メディア活用は外交・国家安全保障上の「ウェッポン」
  - ・ 政府機関による徹底したメディア研究
  - ・ 「リーク」